

第5章 主要協議・調査確認事項

5-1 バッタンバン州対象コミューンの選定

調査において、バッタンバン州内における対象コミューン選定のためのワークショップを実施した。

なお、プルサット州とコンポンチュナン州では、TSC3 のモデルサイトを含むコムユーンが対象地域となることが調査開始前に確認されていたため、ここでの記述はバッタンバン州内の対象コムユーン選定に限っている。また、コンポンチュナン州においては、当初は TSC3 のモデルサイトが位置する 1 コムユーンのみを対象として検討していたが、州農業局での協議の際に、モデルサイト付近を耕作する農家の多くが隣りのコムユーンに居住しているため隣りのコムユーンも対象にした方がよいとの提案があったことから、最終的に 2 つのコムユーンを対象としている。

5-1-1 対象コムユーン選定手順

バッタンバン州における対象コムユーンは、表 5-1 に示す 2 回の会議を経て、選定された。

表 5-1 バッタンバン州における対象コムユーン選定のための会議概要

	日 時	出席者（調査団外）	目 的
(1)	2010 年 5 月 26 日 9:10~12:35	バッタンバン州農業局職員 6 名、郡普及員 10 名、BRAND プロジェクト専門家と秘書	コムユーン選定仮案の作成
(2)	2010 年 6 月 4 日 9:10~9:40	バッタンバン州農業局職員 6 名、TSC 専門家と C/P、BRAND プロジェクト専門家と秘書	最終案の確認

出典：会議計画と記録より調査団作成

以下、それぞれの会議での協議手順を示す。

(1) バッタンバン州における対象コムユーン選定案作成のための会議

調査団は、現地派遣中の BRAND 専門家を通して、BRAND の C/P を中心にバッタンバン州農業局職員 6 名（Agronomy Department、Extension Department から）と州内にある 14 郡のうちコメ栽培が盛んな 9 郡の普及室から室長など普及担当者を招いて、この会議を開いた。

次の Box 5-1 に示す手順により、協議が行われた²⁸。

Box 5-1 バッタンバン州対象コムユーン選定案作成のための会議進行

- (1) コムユーン選定の場合の条件、基準の共有（各自用紙に記入後発表、提出→5-1-2 表 5-3 に結果を記載）
- (2) 郡内コムユーンの仮決定のための協議（表 5-2 のとおりの協議→5-1-3 表 5-4 に概要を記載）
- (3) 州全体でのコムユーン選定案の確認（→同じく 5-1-3 表 5-4 に概要を記載）

²⁸ この会議では、コムユーン選定に関する協議に先立って、本案件計画についての説明とそれについてのコメントの収集を行っているが、この節には含めない。

なお、上記 Box 5－1 中 (2) の協議の際に、出席者はそれぞれ表 5－2 の作業を行った。

表 5－2 バッタンバン州における対象コミューン選定のための協議における
TOR と作業内容

	TOR	TOR のための個人・グループ作業
郡普及員	郡ごとのコミニーン選定案の作成・発表・提出	A4 の地図に、自分の担当コミニーン(×印)、JICA プロジェクト(BAEEP/BRAND)の対象コミニーン(△)、他の開発パートナーの対象コミニーン(*)をそれぞれのプロジェクトタイトルとともに入れたうえ、本案件の対象コミニーンの選定案(○)をその理由(該当基準)とともに記入・発表・提出
州農業局職員	郡内コミニーン選定案についての質問とアドバイス	A3 の地図に、発表を聞きながら、郡選定についての自分の考えを各自記入、質問やアドバイスをしながら、州農業局グループ内で郡ごとに何コミニーンが受け入れられるかを発表し、グループ案として郡ごとの選定リコメンド案を発表、作業地図を提出

出典：会議の計画と記録より調査団作成

(2) バッタンバン州における対象コミニーン確認のための会議

上記表 5－1 に示す会議 (2) での対象コミニーン確認は、Box 5－2 の手順により進行された。

Box 5－2 バッタンバン州対象コミニーン確認のための会議進行

- (1) 仮案について調査団側から質問
- (2) 州農業局職員の回答
- (3) 留意事項の共有
- (4) 最終案の確認(→5－1－3 表 5－4 に概要を記載)

上記 Box 5－2 内の進行で、(2) と (3) は並行して行われている。

5－1－2 対象コミニーン選定の基準

上記のコミニーン選定の基準提案(Box 5－1 内 (1) コミニーン選定の場合の条件、基準の共有)で州農業局職員と郡普及員から提出・発表された選定基準を表 5－3 の上部 I に示す。

その後の協議(同 Box 5－1 内 (2) 郡内コミニーンの仮決定のための協議)で各郡普及員の選定理由として追加された項目を同表中 II、州農業局職員から郡職員に対して、質問やアドバイスとして出された項目を同表中 III に示す。

出された基準について、州レベルと郡レベルのスタッフの記述に、当初、有意的な差を認めなかったため、表 5－3 の I 枠内では別なく記している。分類は調査団による。

表5－3 バッタンバン州における対象コミューン選定のための協議時に
カンボジア側から提案された選定基準

	分類観点	選定基準やPDAからのアドバイス	#
I : 協議前に提案・共有された基準	営農方法・状況 : Agriculture (A-分類、右列の記号 A-,以下同じ)	A1:灌漑栽培が行われている (×8)。 A2:稻作・水稻栽培が行われている (×5)。 A3:二期作が行われている。	①
	自然資源 : Natural Resources (N)	N1:水源がある (×2)。 N2:洪水が起こらない。	
	交通 : Transportation (T)	T1:道路が整備されている (×3)。 T2:交通手段がある。	
	人的資源 (コミューンや農民) : Human Resources (H)	H1:住民の参加意欲が高い (×4)。 H2:住民のほとんどが農民である。 H3:住民がプロジェクトに協力的である (×2)。 H4:農民の営農技術レベルが低い。 H5:Authority がプロジェクトを理解している。 H6:Authority がプロジェクトに協力的である。	③
	種子生産 : Seed Production (S)	S1:種子生産者の技術をモニタリングし、品質の保証を行う必要がある。	
	精米業者 : Millers (M)	M1:精米業者やその協会が興味をもっている。	
	事業管理 : Project Management (P)	P1:Agro-Ecosystem Analysis (AEA) が既に実施されている。	
	自然資源 (N)	N3:土地条件が良い。	
	交通 (T)	T2:(採択しない理由) Bamboo Train のみが交通手段である。	
	人的資源 (H)	H8:(BAPEP により) コメ生産の研修を受けた農民がいる。	
II : 普及員の提案理由で追加された項目	資金 : Fund (F)	F1:Commune Investment Fund の資金を活用できる。	
	III : 協議中に州農業局から普及員にアドバイスされた項目	P2:郡内で優先順位をつける必要がある。 P3:1 郡におけるコミューン数が大きくなりすぎない。 P4:郡の面積とコミューン数のバランスがとれている。 P5:1 人の普及員当たりのコミューン数に極端な偏りがない。 P6:他のプロジェクトの進行状況と競合しない。	

出典：会議時の提出物と記録より調査団作成

- 注：・I の基準は、バッタンバン州農業局職員と郡普及員それぞれ全員に、自由回答式で記入を依頼したもの。したがって、ここに挙げる基準項目は実際には重複しているので、記述の後に(×)で重複度を示す。1つの文章に2つ以上の項目が含まれる場合には、分離して記している。
 ・II や III の基準やアドバイスは、I との重複がないものに限って記している。
 ・#欄は、相互に関係性が高く、かつ、集中して挙げられている項目（後述）。

表5－3中#欄に見られるように、協議の開始時に選定基準として共通して挙げられている項目（I）は、①水資源の賦存状況とそれによる営農方法（灌漑・稻作）、②交通アクセスの状況、③住民の参加・協力に集中している。

実際の提案時（II）にはこれらの項目に加え、種子生産者や精米業者のポテンシャルを生かすこと（順に S1、M1）や過去のプロジェクトの知見や経験、情報、活用可能な資金源を生かすこと（同じく P1、H8、並びに F1）などが考慮されている。

一方、協議における州農業局職員から普及員へのアドバイス（III）で目立ったのは、P2～P6に見られるように、郡間での選定コミューン数のバランスや普及員個人当たりの担当数など、

事業管理の実務的な観点からの項目であった。

5－1－3 対象コミューン選定過程と結果

最終的に選定された対象コミューンは、付属資料1の M/M の Annex V : List of Target Communes に示すとおりである。ここでは、それに至る過程と結果の比較を表 5－4 に示す。

各郡の普及員が自分の担当郡の中での対象コミューンを提案する際、調査団からは各郡何コミューンまでとするなどの数的制限を一切述べていない。そのため提案合計数は 43 となっていたが、協議中の州農業局職員からのアドバイスなどにより、当初調査団が想定していたコミューン数 34 に近いコミューンが選択されている。

表中、EU によるプロジェクト Economic and Social Relaunch of Northwest Provinces (ECOSORN) と重複して、コミューンが選択されているかのごとく見えるが、ECOSORN は 2010 年中に終了予定であり、本プロジェクトが開始するころには、普及担当者や農民の ECOSORN の活動への稼働が低くなるので、問題ないと判断されている。

表5－4 コミューン選定の過程と結果

郡名	郡内コ ミューン数	番号	郡内コム ミニーン名	郡普及員 による状 況把握	郡普及員 による選 択提案	提案 数	郡普及員による選択の 理由の記述				仮案で の採択	最 選	終 選	最 終 選 択 数
							①	②	③	その他				
Banan	8	1	Kantueu Muoy			5		✓	✓	✓	II-H8	○	○	3
		2	Kantueu Pir											
		3	Bay Damram		○									
		4	Chheu Teal		○									
		5	Chaeng Mean Chey											
		6	Phnum Sampov		○									
		7	Snoeng		○									
		8	Ta Kream	BAPEP	○									
Thma Koul	10	1	Ta Pung		○	8		✓	✓	M1	○	○	4	
		2	Ta Meun		○									
		3	Ou Ta Ki		○									
		4	Chrey											
		5	Anlong Run		○									
		6	Chrouy Sdau		○									
		7	Boeng Pring	BRAND										
		8	Kouk Khmum		○									
		9	Bansay Traeng		○									
		10	Rung Chrey		○									
Battambang	10	1	Tuol Ta Aek			6		✓	✓	II-N3	○	○	3	
		2	Preak Preah Sdach											
		3	Rotanak		○									
		4	Chamkar Samraong		○									
		5	Sla Kaet											
		6	Kdol Daun Teav		○									
		7	Ou Mal		○									
		8	Voat Kor	BRAND	○									
		9	Ou Char		○									
		10	Svay Pao											
Bavel	6	1	Bavel	ECOSORN	○	3		✓	✓	II-N3	○	○	3	
		2	Khnach Romeas	ECOSORN	○									
		3	Lvea	NWISP	○									
		4	Prey Khpos											
		5	Ampil Pram Daeum	LWF										
		6	Kdol Ta Haen	LWF										
Aek Phnum	7	1	Preak Norint		○	5		✓		F1	○	○	4	
		2	Samraong Knong		○									
		3	Preak Khpob		○									
		4	Preak Luong	BRAND	○									
		5	Pteam Aek		○									
		6	Prey Chas	Flood*										
		7	Kaoh Chiveang	Flood*										

郡名	郡内コ ミュー ン数	番 号	郡内コ ミューン名	郡普及員 による状 況把握	郡普及員 による選 択提案	提案 数	郡普及員による選択の 理由の記述				仮案で の採択	最 選	終 選	最 終 選 択 数
							①	②	③	その他				
Moung Ruessei	9	1	Moung Ruessei			5				II-N3, M1			4	
		2	Kear		○				✓		○	○		
		3	Prey Svay											
		4	Ruessei Krang											
		5	Chrey	*	○		✓				○	○		
		6	Ta Loas		○		✓				○	○		
		7	Kakaoh	*	○		✓				○	○		
		8	Prey Touch											
		9	Robas Mongkol		○		✓							
Sangkae	10	1	Anglong Vil			6				(T3)			4	
		2	Norea		○		✓	✓	✓			○		
		3	Ta Pun		○		✓	✓	✓		○	○		
		4	Roka		○		✓							
		5	Kampong Preah	BRAND			✓	✓	✓			○		
		6	Kampong Prieng											
		7	Reang Kesei	Bamb Train										
		8	Ou Dambang Muoy		○				✓					
		9	Ou Dambang Pir		○				✓		○			
		10	Voat Ta Moem		○				✓		○	○		
Koas Krala	6	1	Thipakdei	ECOSORN	○	3				(T3)			3	
		2	Kaos Krala		○									
		3	Hab											
		4	Preah Phos											
		5	Doun Ba	ECOSORN	○						○	○		
		6	Chhnal Mean	ECOSORN										
Rukhak Kiri	2	1	Preak Chik	ECOSORN	○	2	✓			(T3)	○	○	2	
		2	Prey Tralach	ECOSORN	○		✓				○	○		
合計	68				43	43					28	30	30	

出典：会議時の提出物と記録より調査団作成

- 注：
- ・「郡普及員による状況把握」の列の記述で、網掛けのものはコムユーン選択に適さない理由として特別に挙げられた理由。白地のものは、そのコムユーンで進行中のプロジェクトの略号。< Flood >は、トンレサップ湖に面した 2 つのコムユーンが洪水に遭うことが多く、デモ圃場として適さないとされた例。< Bamboo Train >は、コムユーンへの交通が、かつては Bamboo Train (レールの上を走らせる竹でできた小型列車様の交通手段) に限られるなど、道路事情が悪かったことの象徴として挙げられている。現在の道路事情は改善しているものの、会議の参加者には展示性が低いと判断された例。
 - ・同じ欄で、普及員は担当区間で終了あるいは実施されているプロジェクトとして、JICA による BAPEP と BRAND、ADB の支援により MOWRAM を C/P 機関として実施されている Northwest Irrigation Sector Project (NWISP)、スイスの NGO であるルーテル世界連盟 (Lutheran World Federation、表中 LWF) Cambodia による Community-Based Disaster Risk Management Project、EU による ECOSORN プロジェクトを挙げている。
 - ・「郡普及員による選択の理由の記述」は、記述方法にばらつきがあり、複数コムユーンに共通しての基準や理由と考えられる項目と、コムユーンごとに異なる理由を記しているものが混在している。共通していると考えられるものは、列を結合して、個別のものはそれぞれの欄に該当の印 ✓ を記している。